

---

---

# つれづれそう 【徒然想】

## 父の教え

株式会社栗本五十市商店 代表取締役  
全国病院用食材卸売業協同組合 理事長  
栗本 保男



私が社長に就任したのは、58歳の時です。父から3代目として会社を引き継ぎ、今年で8年目になります。創業当初、弊社は家族経営で玖波の特産の「玖波いりこ」と「大島みかん」の行商をしていました。私が21歳で入社した当時は、「栗本商店」として工場給食や法務省の矯正施設、国立病院等に食材等を納品する卸業へと成長していました。そのころ、父に言われたのが「自分の給料は自分で稼げ、売上は現場に出て足で稼げ」。「給料は出せないから、自分で稼げ」という意味でした。若干21歳で商売の右も左もわからなかった私は、さて何をしようかと思案した結果、「これからは食慣習の変化を受けて、慢性疾患が増加するだろう。高齢化も進み、食の見直しの時代が必ず来るはずだ」と考えました。思いついたのは、病院と高齢者等の福祉施設給食です。この分野の業務拡大を目指して、朝早くから夜遅くまで「現場を歩き、そこからヒントを見つけろ」という父の教えを忠実に実行し、山口・広島県の病院の栄養科を無我夢中で訪問しました。病院では当然、患者さま主体の給食ですから、求められる食材や商品はカロリーを抑えたものやビタミン・ミネラル等の治療食がらみの付加価値商品がほとんどです。また、各病院の栄養士の先生やドクターからは、病院給食のニーズに合った新商品の開発も依頼されました。メーカーさまの協力のもと「ノンオイルドレッシング」や「分包用減塩醤油」の開発も手掛け、現商品の先駆けとなりました。これをきっかけに厚生労働省・農林水産省認可の全国病院用食材卸売業協同組合に加入

し、特殊食品の企業として現在に至っています。これも父の教えがあったからこそだと感謝しております。

わが国の食生活は豊かになり、飢餓の時代から飽食の時代へ大きく変化し、世界でもトップクラスの長寿国になりました。その結果、高血圧・糖尿病・脂質異常等の生活習慣病の増加という大きな問題も出てきました。私は「食による健康被害は食で制せ」を自分の信念として、今日まで貫いてまいりました。そのために、もっとお得意さまのニーズに応えるべきだと4年前に自社関連工場を立ち上げ、おいしくて抵抗なく食事療法が継続できる商品の開発にも着手。現在、エンヘルシリーズ(減塩)とプロヘルシリーズ(たんぱく調整)の二つのカテゴリーの自社ブランド商品を製造販売しております。

また昨年10月には広島市内に、管理栄養士の対応による特殊食品の専門直営店舗「いそいちショップ」をオープンし、今後チェーン化していく予定です。国の予想では2030年に3人に1人が高齢者となり、2050年に高齢者人口のピークを迎えます。これらを背景にますます医療施設、介護施設、在宅医療、嚥下機能等に対応する食材が必要となるでしょう。

こうした環境下で弊社は、一人でも多くのお客さまが健康で長生きし、人生を楽しんでいただけるような商品を開発し、社会に認められる企業になることを目指しております。弊社の今年度の企業方針は「原点回帰」です。経営陣を含め全員が基本に戻り、社会貢献型企業となれるよう精進してまいります。